

第3編

地 域 構 想

第1章 地域づくりの基本的考え方

第2章 広 域 連 携

第3章 地 域 別 構 想



第1章 地域づくりの基本的考え方

本県は、全国第3位の広大な県土を有し、磐梯山、猪苗代湖に代表される多様で変化に富んだ美しい自然と四季の彩りに恵まれ、歴史・文化、産業などにおいてさまざまな特性をもった地域により構成されています。

そして、それぞれの地域において、自然とくらし、文化、産業の調和の下に特色ある地域づくりが行われています。

21世紀を迎え、社会の成熟化やグローバル化の一層の進展など本県を取り巻く社会経済情勢の大きな動きが生じており、こうした時代の潮流変化やそこから生じるさまざまな課題に的確に対応できる地域づくりが求められています。

特に今後の分権型社会においては、それぞれの地域が主体的に、地域が抱える課題に的確に対応し、地域主導の「自立」と「創造」による地域づくりを進めることが必要です。

また、地域の活力の維持と自然環境への負荷の低減によって、持続的発展が可能な地域社会を形成することが必要です。

誰もがいきいきとほんとうの豊かさを実感できる地域社会を創造していくためには、行政、そして企業や団体を含めた地域住民がそれぞれに果たすべき役割を認識し、ともに参画し、ともに創るという考え方が大切です。

そして、一人ひとりの積極的な参加の下に、独自の歴史・文化などふるさとへの誇りに根ざした個性豊かな地域づくりを進めていくことが、活力ある県づくりにつながるものと考えられます。

地域づくりの主役は、私たち県民一人ひとりです。

また、多極分散型のネットワーク社会を形成している本県においては、それぞれの地域が相互に連携・補完しながら、県全体の中でどのような役割を担っていくのかという考え方も必要です。

ここでは、これらを踏まえ、地域づくりの基本的考え方として「地域づくりの基本目標」、「21世紀の地域づくりの視点」、「地域区分」及び「相互連携による生活圏の展開戦略」を示すとともに、他県との連携や地域相互の連携（「広域連携」）の必要性、視点、具体的な広域連携施策の展開方向を明らかにしています。

さらに「地域別構想」は、地域住民、市町村、県が連携しつつ、地域特性を生かした魅力あふれる地域づくりを進めるための共通指針として、七つの生活圏ごとの特性や課題を踏まえたそれぞれの将来像や基本的発展方向を明らかにしています。



白鳥と猪苗代湖（会津地域）



吾妻連峰（県北地域）



滝桜（県中地域）



朝焼けの松川浦（相双地域）



尾瀬（南会津地域）



江竜田の滝（県南地域）



塩屋崎灯台といわきの海
（いわき地域）



第1節 地域づくりの基本目標

地域づくりの基本目標は

**一人ひとりの参加で個性を磨く、
魅力あふれるふるさと「ふくしま」**

— 多極ネットワークの新たな展開 —

とします。

「県づくりの理念」に基づいて、県民、市町村等と県が一体となって地域づくりに取り組む際の「21世紀の地域のイメージ」として、この目標を掲げます。

本県は、自然条件や社会条件などの面で、地域によってさまざまな特性をもっています。

こうした特性を地域の個性、魅力として、さまざまな主体の積極的な参画と連携の下で、生かし育むことによって、ふるさととしての自信や誇りに満ち、自ら輝くことができる地域の形成をめざします。

また、新たな展開として、高速交通体系や拠点施設など交流基盤の整備進展による県民の諸活動の広域化、重層化を踏まえ、生活圈相互や県外、海外との多様で広域的な交流・連携を一層進め、大交流の時代をリードする地域の形成をめざします。

基本構想に掲げる「21世紀の地域のイメージ」

- 一人ひとりの積極的な参加による個性豊かな地域づくりが展開されています。
- 地域資源を活用した活力ある産業が展開しています。
- 多様な文化などそれぞれの個性に誇りを持ち、その魅力を広く発信できる地域が形成されています。
- 都市的なサービスとゆとりある空間、豊かな自然の恵みを併せて享受できる地域が形成されています。
- 交流や連携により、常に新たな視点と活力が導入される世界に開かれた地域が形成されています。

第2節 21世紀の地域づくりの視点

本県を取り巻く社会経済情勢は、価値観の多様化、少子化・高齢化の急速な進行、地方分権の進展、地球規模での環境問題の深刻化、情報通信技術の飛躍的な進歩など、大きく変化しており、21世紀の地域づくりも、こうした動きの中で考えていく必要があります。

したがって、今後の地域づくりは以下の視点を十分踏まえ進めていきます。



◇ 地理的優位性を生かした地域づくり

自然と共存できる21世紀型都市のネットワークと豊かな自然のネットワークの重層的な形成をめざす北東国土軸上にあって、本県は、これまで取り組んできた多極ネットワークの新たな展開を図ることなどにより、その先導的な役割を担う地域づくりを進めます。

また、本県は、21世紀のフロンティアである東北地方とこれまでわが国の発展を担ってきた関東圏との結節点に位置していることから、双方のポテンシャルを生かした活発で多様な連携と交流の玄関としての役割を担う地域づくりを進めます。



◇ 交流型社会に対応する地域づくり

多極分散型の県土構造の下で、着実に整備を進めてきた交流基盤の活用を図るとともに、福島空港や小名浜港、相馬港などの国際交流拠点を通じた海外との交流を一層進めるなど、地球時代にふさわしい内外に開かれた交流型の地域づくりを進めます。

また、IT（情報通信技術）を積極的に活用し、国内外の人々との幅広いネットワークの形成をめざします。

◇ 新しい時代のモデルとなる独自の発想に基づく地域づくり

「美しいふくしまの創造」や「多極ネットワークの形成」など、新しい理念に基づいた地域づくりを進めてきた私たちは、今後とも、森・川・海を一体としてとらえる「循環の理念」など、新しい時代のモデルとなる独自の発想に基づいた地域づくりを進めます。

◇ 分権型社会における地域づくり

「地方分権・うつくしま、ふくしま。宣言」の理念を踏まえ、県民や民間団体、NPOなどさまざまな主体の積極的な参画と連携により、地域の多様な個性や知恵を生かした、自主的・自立的な地域づくりを進めます。

◇ 本格的な少子・高齢社会を見据えた地域づくり

三世帯同居率の高さなど、本県における少子化・高齢化の特徴を踏まえ、子どもを安心して生み育てることができる環境づくりの推進や介護サービスの充実、地域活動を通じた高齢者の社会参加の推進等により、性別や年齢などにかかわらず誰もがいきいきとくらすことのできる環境づくりを進め、豊かさやゆとりを実感できる地域づくりを進めます。

◇ 「うつくしま未来博」をとoshした地域づくり

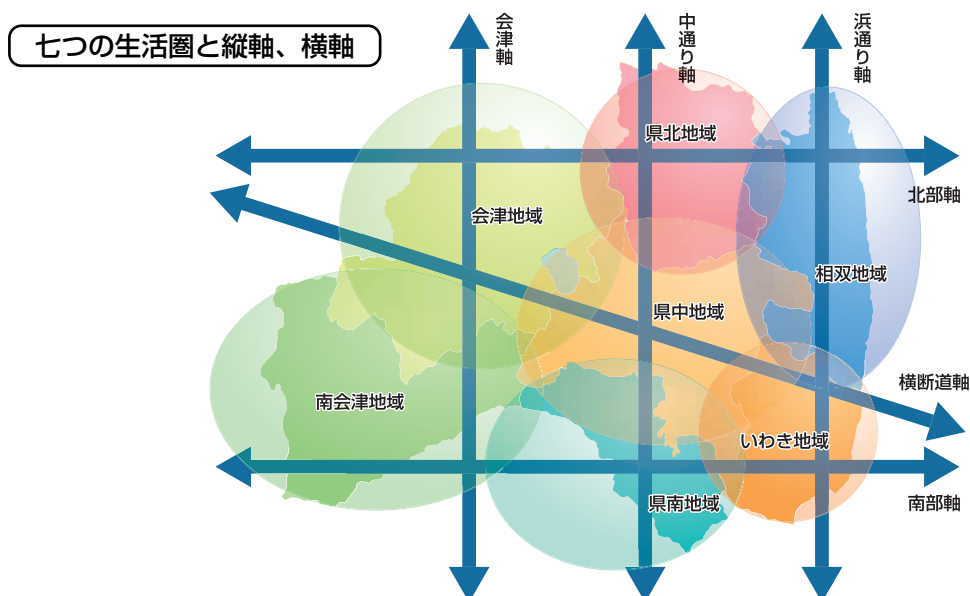
さまざまな形で、多くの人々が参加・交流・体験できる「うつくしま未来博」は、新しい地域づくりについて、内外から知恵を結集し、ともに考え、その情報を広く発信しようとするものです。

未来博への参加の経験やそこで描かれる21世紀のイメージを大切に、その成果を十分生かした地域づくりを進めます。

第3節 地域区分

◇ 調和のとれた七つの生活圏

これまで諸機能の集積が図られてきた南北方向の縦軸と今後多様な交流を担っていく横軸との結節点を、引き続き本県の地域づくりの基本となる七つの生活圏としてとらえ、それぞれの生活圏において、都市と農山村の機能分担と連携によって、教育、文化、医療、商業等の生活機能を整備するとともに、各生活圏の連携を強め、この計画の基本目標に即して「調和のとれた七つの生活圏づくり」を進めます。



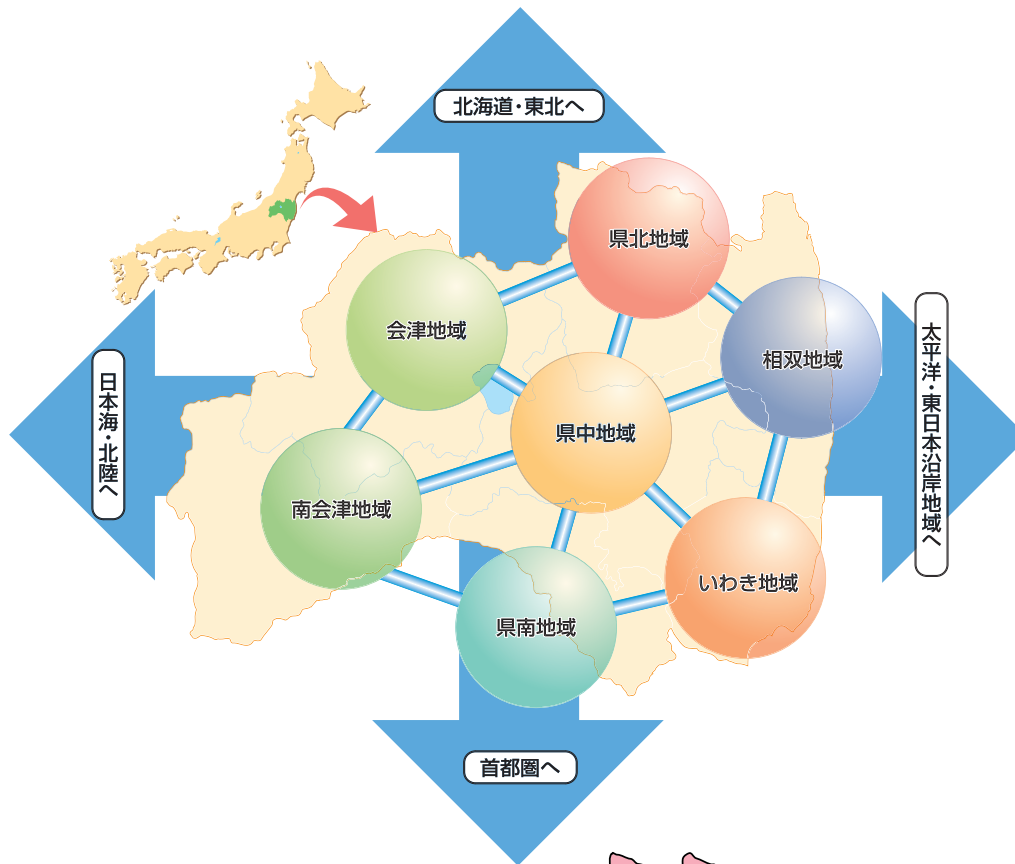
この七つの生活圏は、地理的な条件や歴史的・文化的関連の強い、一定のまとまりを持った地域であり、県民の日常生活の活動範囲に概ね対応する地域となっていますが、交通体系や情報通信網の整備進展などに伴い県民の日常生活圏はますます広域化、重層化しています。

一方、それぞれの生活圏内の一部地域においては、依然として十分な都市的サービスの享受が困難な状況もみられます。

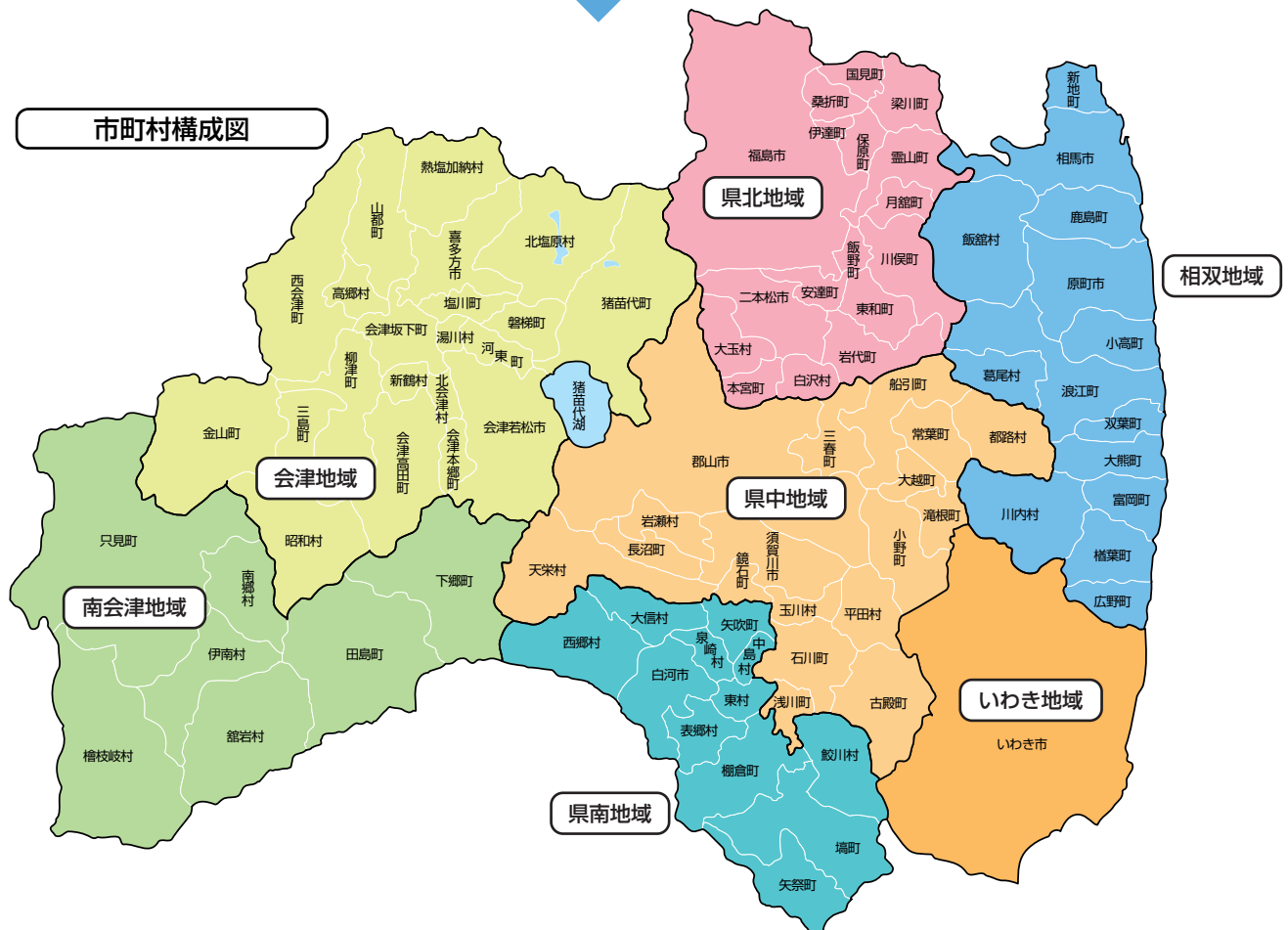
こうした状況を踏まえ、七つの生活圏を基本としつつ、生活圏相互の重層的な関わりや、準生活圏の存在にも着目しながら、より県民生活の実態に即した取組みを進めます。

- 縦軸～北東国土軸を形成する中通り軸、会津軸、浜通り軸
- 横軸～北東国土軸と日本海国土軸をつなぐ横断道軸、北部軸、南部軸
- 準生活圏：七つの生活圏の中で、より日常的なつながりや行政的なつながりの強い圏域を準生活圏ととらえます。

多極ネットワークイメージ図



市町村構成図



第4節 相互連携による生活圏の展開戦略

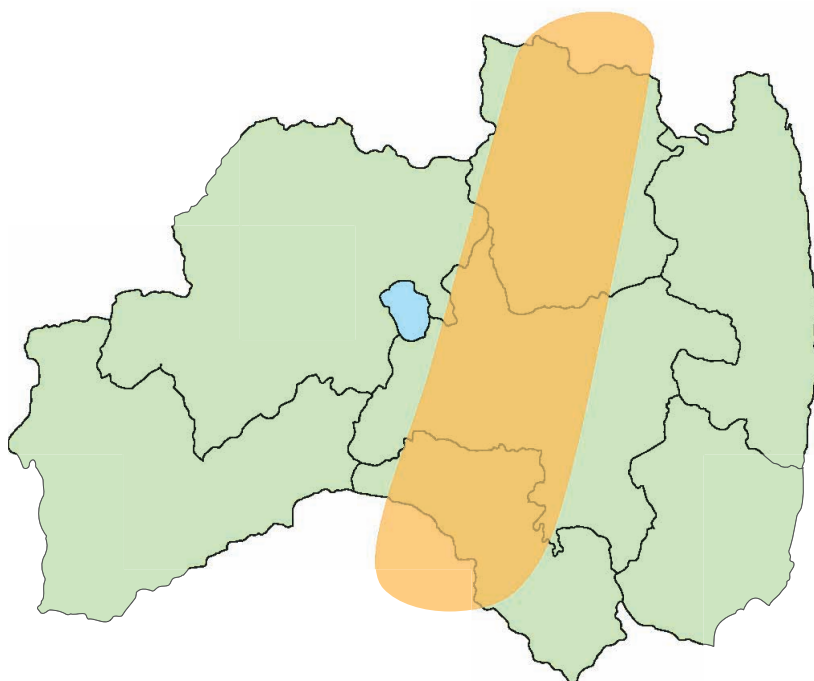
ここでは、七つの生活圏相互の連携・機能補完など、広域的、重層的な視点から取り組む生活圏の主要な展開戦略を示します。

県北・県中・県南地域を包括する圏域 (中通り軸産業国際交流ゾーン)

この圏域は、北東国土軸の中央部のルートである中通り軸に位置し、東北自動車道、東北新幹線、福島空港などの高速交通体系の整備進展に伴い、これまで本県の産業経済の発展を先導し支えてきた地域です。さらには、首都機能移転先候補地に選定されるなど、その優位性が高く評価されています。

また、高速交通体系の整備により圏域内の主要都市が短時間で結ばれ、暮らし、文化、産業などさまざまな交流が活発に行われ、重層的な生活圏が形成されています。

今後多様な交流を担う北部軸、横断道軸、南部軸の整備進展に伴い、縦軸・横軸の結節地域としての優位性の高まりや空港機能の強化を生かした、高度な産業機能の集積促進や国際的なコンベンションの誘致等により、本県のグローバル化を先導する役割を担うとともに、東日本内陸部における中核的な産業集積ベルトゾーンの創出を図ります。



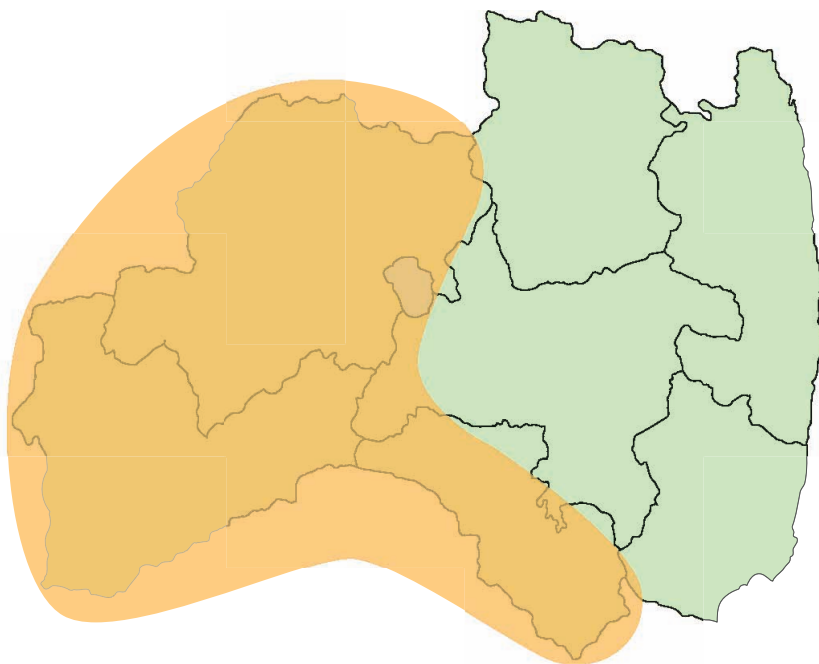
会津・南会津・県南地域を包括する圏域 (会津軸・南部軸広域交流ゾーン)

この圏域は、首都圏に隣接し、阿武隈川水系、阿賀野川水系などの源流域、尾瀬、裏磐梯や猪苗代湖を有する多彩で広大な自然に恵まれ、名高い歴史や伝統文化、農山村風景、さらには、温泉、スキー場群など、豊かな地域資源を有する地域です。

磐越自動車道、会津縦貫北・南道路、国道289号の交通体系整備のインパクトを活用し、首都圏、関西圏からの玄関口となる立地条件の優位性やさまざまな地域資源を最大限に生かした首都圏、新潟県、山形県等との交流拡大や日光、那須、南会津のトライアングル観光ルートの形成等により、観光産業の振興やグリーン・ツーリズムと連携した新しい産業の発展が期待されています。

会津地域、県南地域、日光をゲートウェイとして、南会津地域に大量の交流人口を呼び込み、豊かで雄大な自然と共生したアウトドア体験ゾーンの創出を図ります。

また、本県の自然環境や自然景観の保全の取組みを先導する地域として、上下流連携による水源かん養や水質保全等の取組みを進めます。

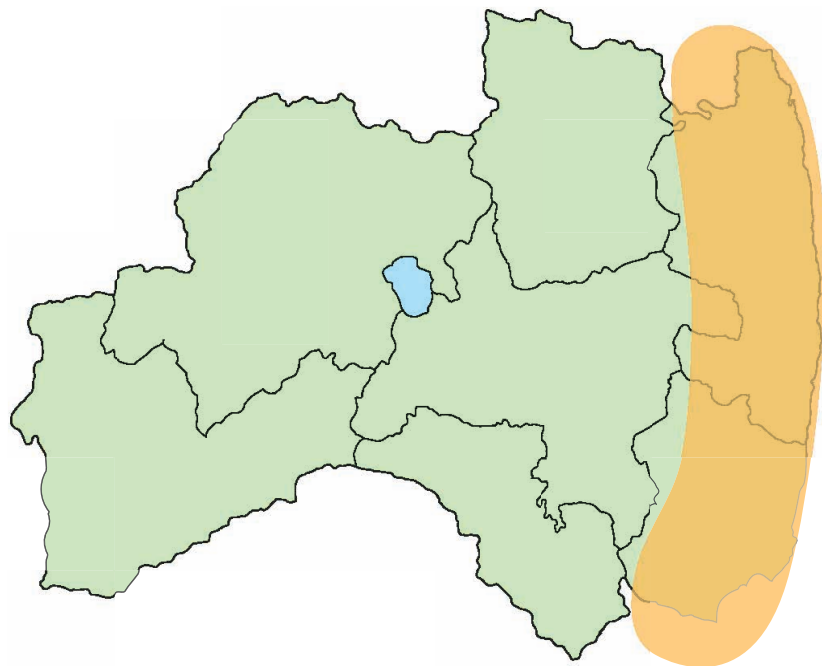


いわき・相双地域を包括する圏域 (東日本沿岸中核都市ゾーン・大エネルギー定住ゾーン)

この圏域は、約160kmの海岸線、緑豊かな阿武隈高地など多様性に富んだ自然を有する気候温暖な地域であり、全国有数の電力供給地域である相双地域と南東北の工業拠点地域であるいわき地域を包括し、東京圏と仙台中核都市圏を結ぶ浜通り軸上に位置しています。また、アクアマリンふくしまやJヴィレッジなどの特色ある広域交流拠点施設を有する地域でもあります。

いわき地域は、常磐自動車道と磐越自動車道との結節点上の位置と、国際貿易港である重要港湾小名浜港を有する優位性を生かし、高次都市機能の集積促進や相双地域、茨城県北部地域等との連携強化により、東日本沿岸部における中核都市圏の創出を図ります。

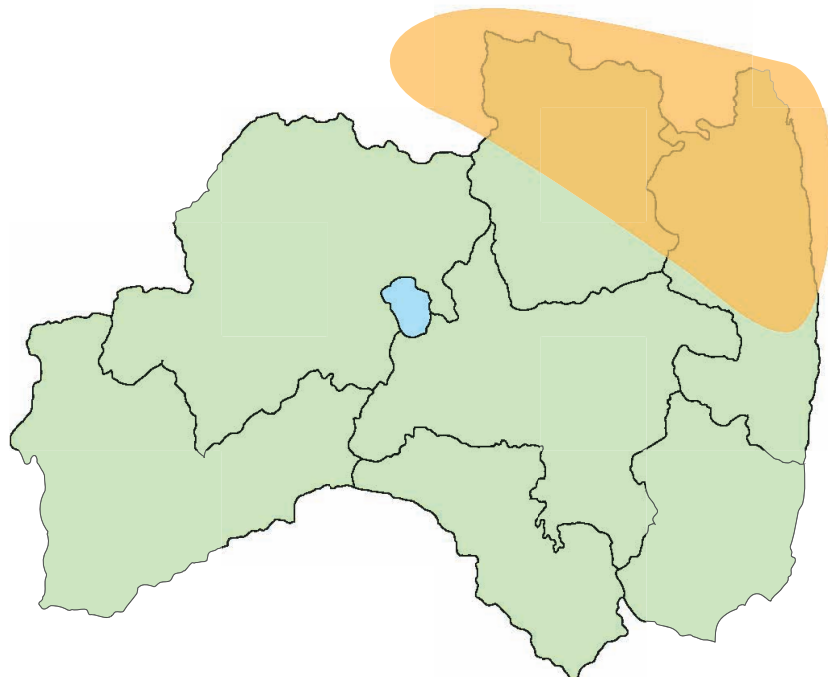
また、相双地域は、常磐自動車道延伸のインパクトや電源地域としての特性を生かし、いわき地域との連携による首都圏等との多様な交流の拡大や産業の集積促進を図るなど、定住・広域交流圏の創出を図ります。



県北・相双地域を包括する圏域 (北部軸広域交流ゾーン)

この圏域は、本県の政治・経済・文化の中心的役割を担う県北地域と相馬地域開発による産業集積や重要港湾相馬港の機能強化による発展が期待される相双地域で構成され、常磐自動車道や東北中央自動車道の整備進展により、高速交通体系の充実が図られつつある地域です。

東北自動車道を基幹に、東北中央自動車道の整備進展、常磐自動車道の延伸により、高速交通体系の結節地域としての優位性の高まりを生かし、山形県、宮城県等と連携した広域観光ルートの整備や多様な交流の促進、圏域内の連携の強化により、阿武隈地域の定住条件の向上を図るとともに、隣接する米沢市、白石市をも含めた広域経済圏の創出を図ります。

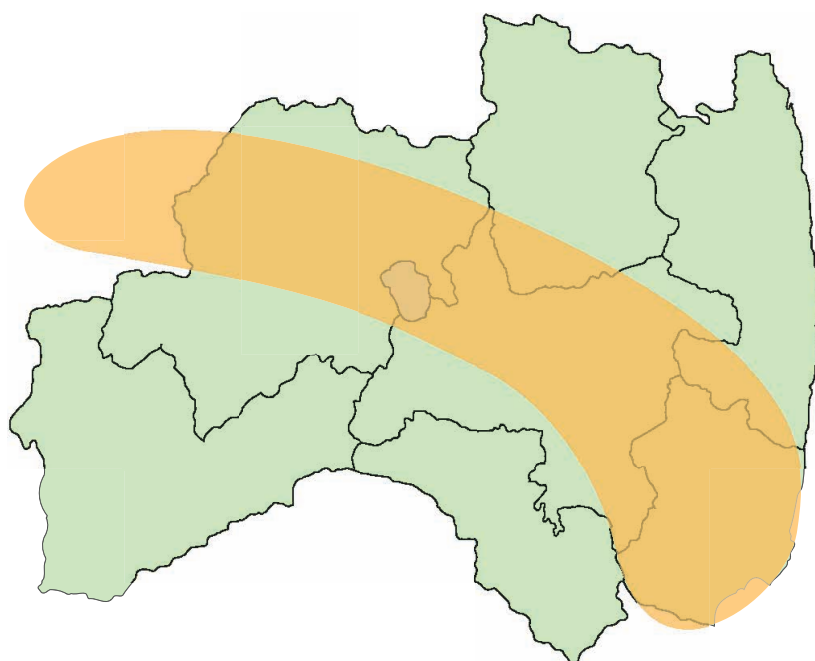


**いわき・県中・会津地域を包括する圏域
(横断道軸広域交流ゾーン)**

この圏域は、新しい国土軸を結ぶ地域連携軸の基幹的な地域であり、常磐郡山地区新産業都市として整備された産業基盤や先端技術をはじめとする工業集積、さらには会津大学など高等教育機関が集中する地域です。

また、アクアマリンふくしまやあぶくま洞、猪苗代湖、温泉など、県内有数の観光ポイントを数多く有する地域です。

高い工業集積や高等教育機関等の立地による圏域の優位性を生かし、産学官連携による研究開発環境の整備や新事業創出促進の中核的な役割を担う地域として、磐越自動車道沿いに展開するいわき－郡山－会津若松－新潟の各都市の産学官を結び付け、太平洋から日本海に至るIT－ベンチャー回廊の創出を図ります。





第2章 広域連携

第1節 広域連携の必要性

広域連携は、多様で複雑な地域課題を解決していくために、県内外を問わず隣接地域が協力・協調して、豊かで活力ある地域づくりを進めるものです。

また、地域をより活性化するために、自らの持つ風土や歴史に培われた独自性を再認識するとともに、各々の地域が相互に活発に交流することによって、常に新しい視点と活力を導入することが求められています。

第2節 交流基盤の活用

本県においては、各生活圏の振興の核となる拠点や高速交通体系等の交流基盤の整備は着実に進んでおり、また、福島空港の国際定期路線や小名浜港の外国貿易コンテナ航路の開設など、航空・海上ネットワークによる海外との交流が活発化しています。

今後は、これらの交流基盤等をいかに活用して地域の活性化につなげていくかが重要な課題となっています。

そのため、磐越自動車道等を連携の軸とした交流圏の広域化、県内の観光拠点のネットワーク化による相乗的な魅力の向上、他県の空港や港湾との役割分担・機能補完など、交流のさらなる活発化と地域の魅力向上により、地域の活性化を図ります。

第3節 広域連携の取組みの展開

広域連携は、東北・北海道地方が一体となって取り組むものから、いくつかの市町村が連携するものまで、さまざまな規模と目的を有しています。

ここでは、次のとおり広域連携の取組みを大きく3つの柱に分け、それぞれの目的を十分に踏まえた展開を図ります。

◇ 県境を越えた広域交流の推進

① 広域交流圏の形成

6つの県と接している本県は、県際地域を中心に、多様な歴史的・文化的なつながりを有しており、また、近年、交通基盤等の整備が進展していることから、県境を越えた一体的な広域交流圏の形成を図ります。

② 広域連携の活発化

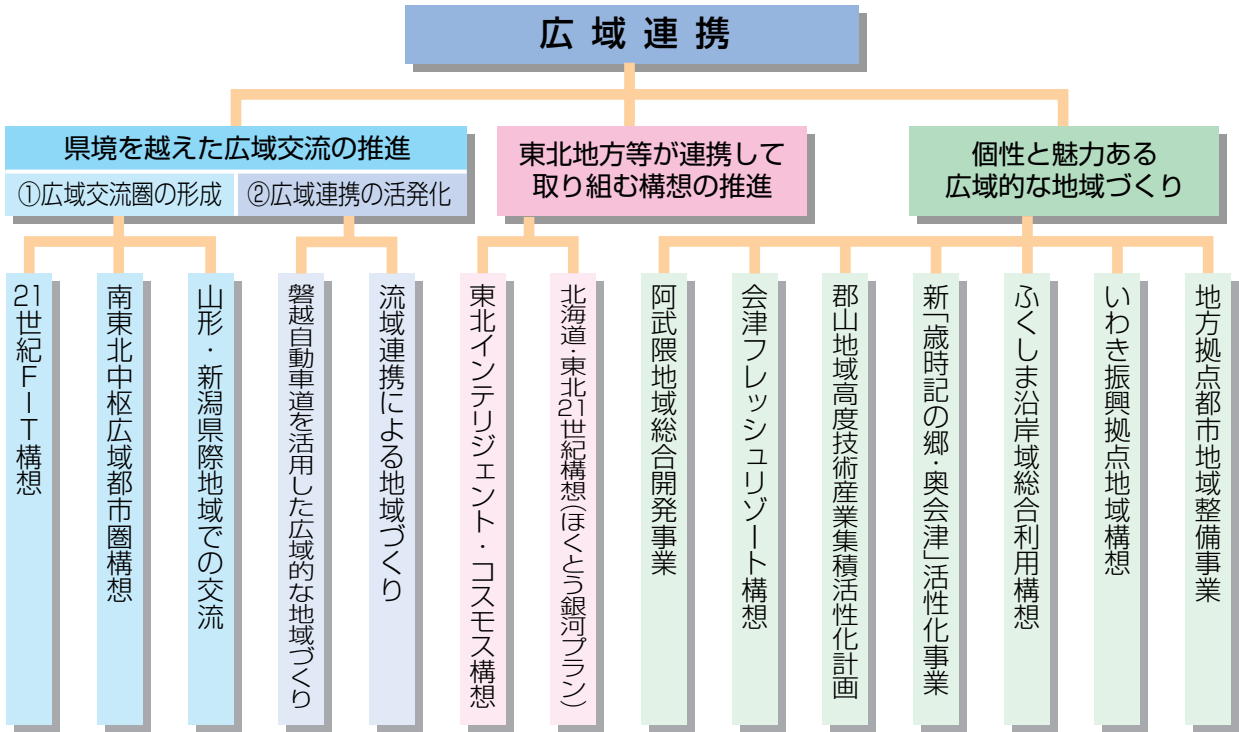
磐越自動車道や阿武隈川、久慈川等の河川を交流の軸とした関係市町村による広域的な連携の活発化を図ります。

◇ 東北地方等が連携して取り組む構想の推進

都市のネットワークと自然のネットワークが重層的に形づくられる中で、各道県をはじめ、産業界、大学等との一体的な連携を図りながら、歴史と風土の特性に根ざした新しい文化やライフスタイルが育まれる地域、特色ある知的な付加価値の高い産業を有する地域の形成をめざす取組みを進めます。

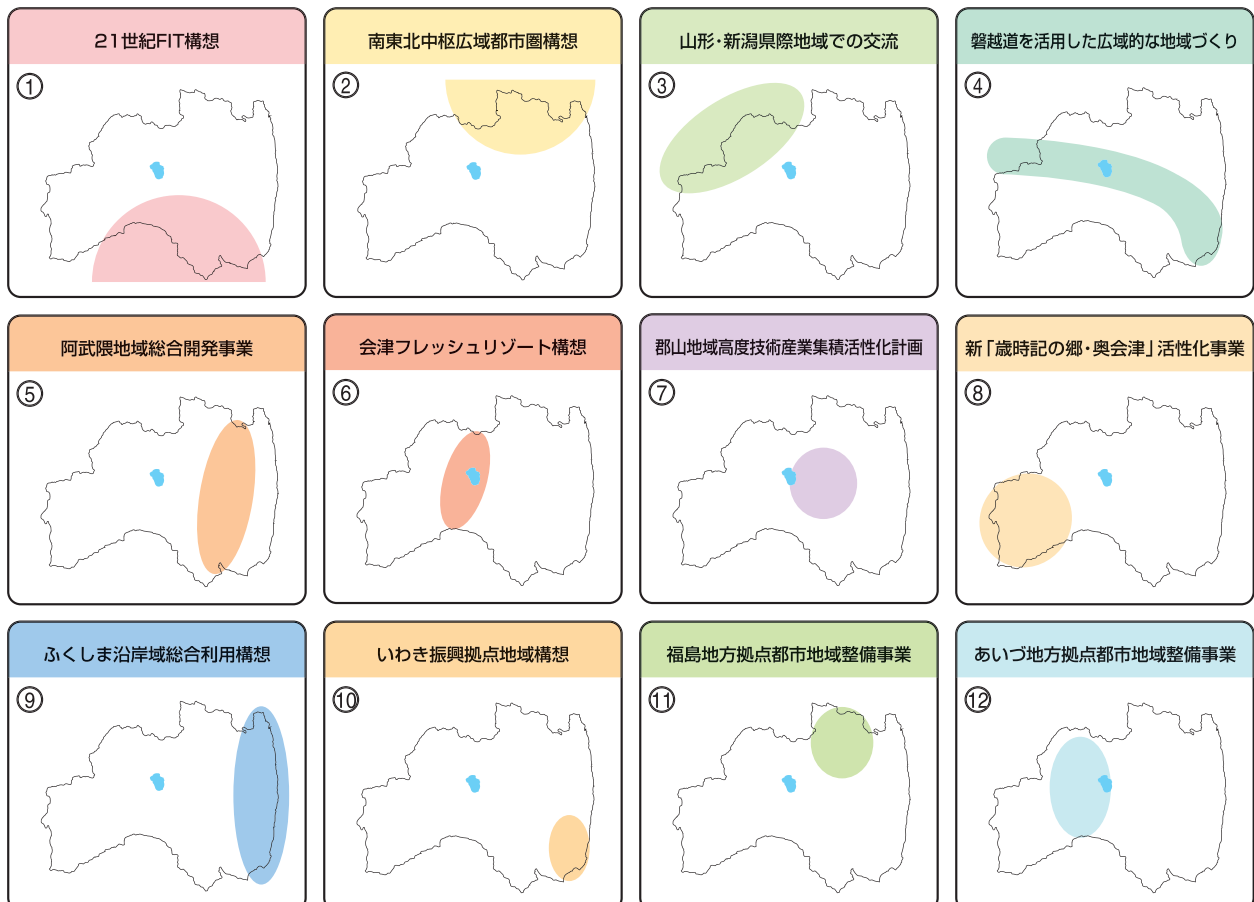
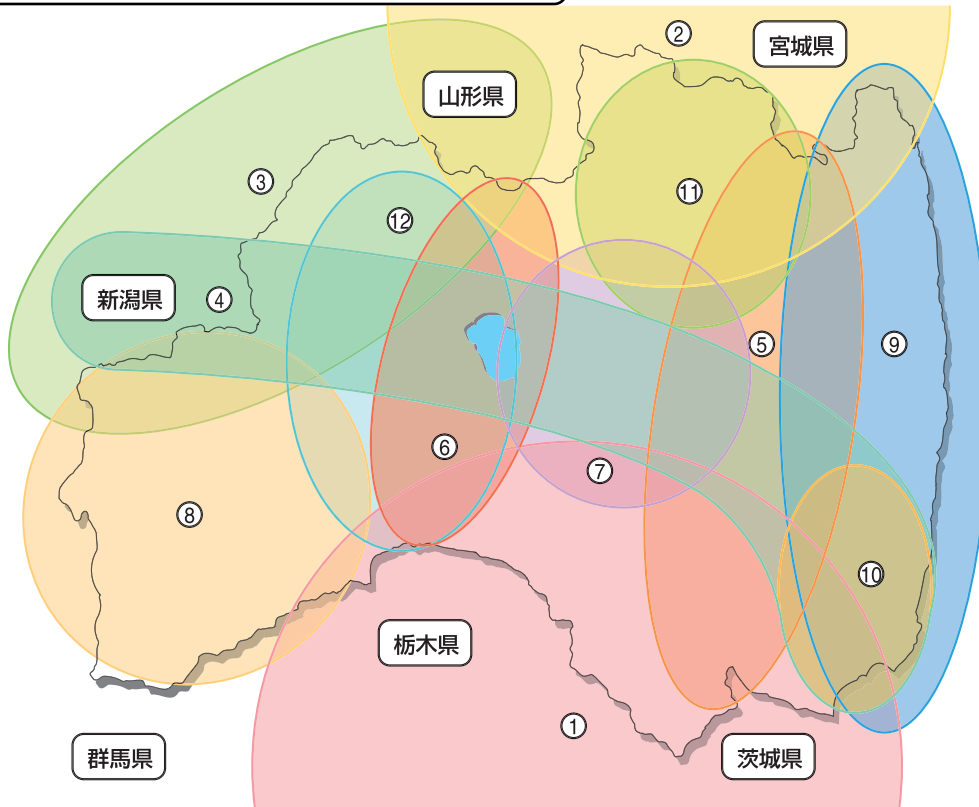
◇ 個性と魅力ある広域的な地域づくり

県内各地域においても、共有する地域資源や類似する特性を生かし、共通の目的意識を育みながら、相互補完のしくみを通じて、個性的で魅力あふれる広域的な地域づくりに取り組めます。





県境や市町村境にとられない広域連携の取組み



21世紀F I T構想

福島、茨城、栃木3県の県際地域を中心とする地域は、豊かな自然環境を有しているとともに、交通・物流施設、教育文化施設や交流拠点施設等の整備が進んでいます。また、この地域は、首都圏と東北圏の結節点に位置しており、東京から北海道に至る国土軸の形成に向けて、今後ますます重要な役割を担うことが期待されています。

このため、3県が協力し関係市町村、地域住民等の連携の下、地域それぞれの個性ある機能を積極的に育み、諸機能が相互に連携しあう一体的な交流圏「F I Tシンフォニー圏」の形成をめざします。

また、広域的な地域づくりを進めるために、福島空港を核とした高速・広域交通体系の整備や、産業業務機能の集積、交流・レクリエーション拠点の整備等を促進し、21世紀にふさわしい豊かな生活が展開できるゆとりある空間の創出を図ります。

●圏域図

Fukushima
Ibaraki
Tochigi

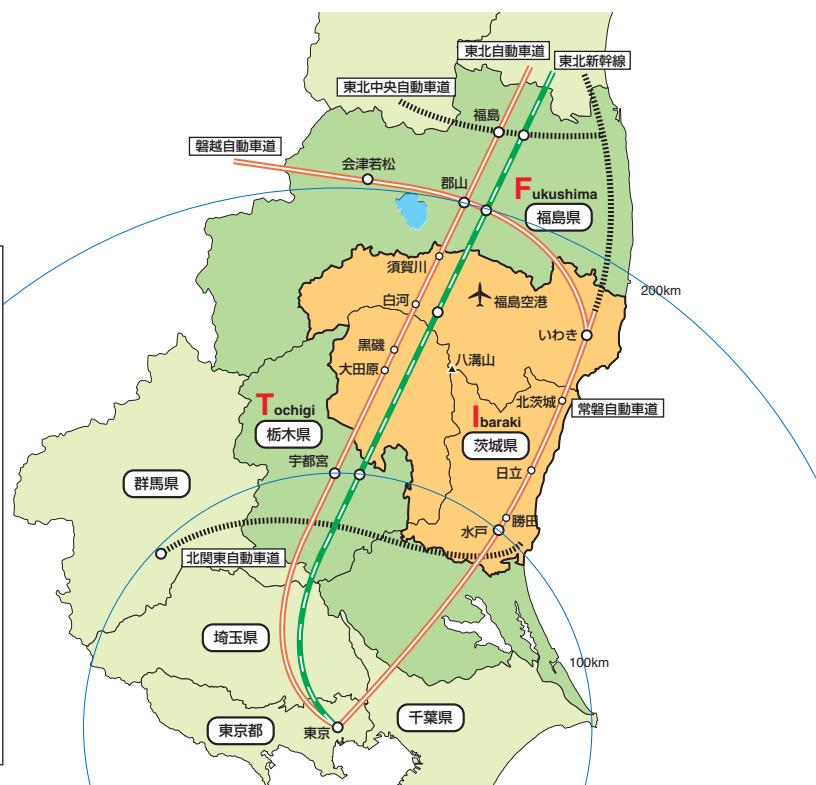
●【構成市町村】

本県（3市11町11村）

須賀川市、長沼町、鏡石町、
岩瀬村、天栄村、古殿町、
石川町、玉川村、平田村、
浅川町、白河市、西郷村、
表郷村、東村、泉崎村、
中島村、矢吹町、大信村、
棚倉町、矢祭町、塙町、
鮫川村、田島町、下郷町、
いわき市

茨城県 29市町村

栃木県 20市町村



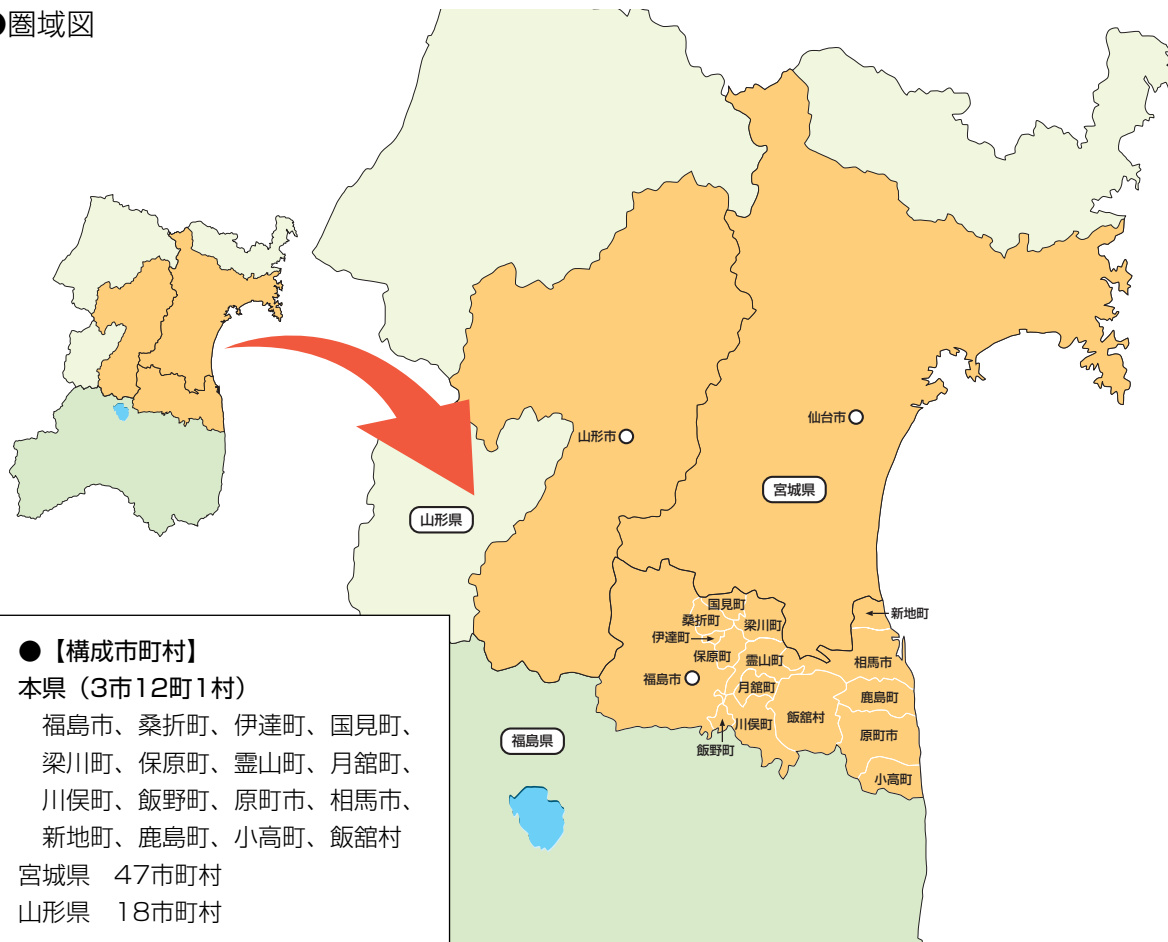


南東北中枢広域都市圏構想

福島市、仙台市、山形市の3県都を中心とする広域的な地域は、高速交通体系や産業基盤の整備の進展等により、高次な生産機能が集積されているとともに、高等教育機関や商業・サービス業等の都市機能の集積が高まっており、東北地方の新たな発展を牽引する役割を担うことが期待されています。

このため、常磐自動車道の延伸や、東北中央自動車道などの広域幹線道路の整備をはじめとする重点プロジェクトの促進を図るとともに、各都市及び周辺地域の連携と交流を促進し、相互の機能を補完・共有することにより、各地域の持つ特性・資質を十分に活用し、広域都市圏の形成を図ります。

●圏域図

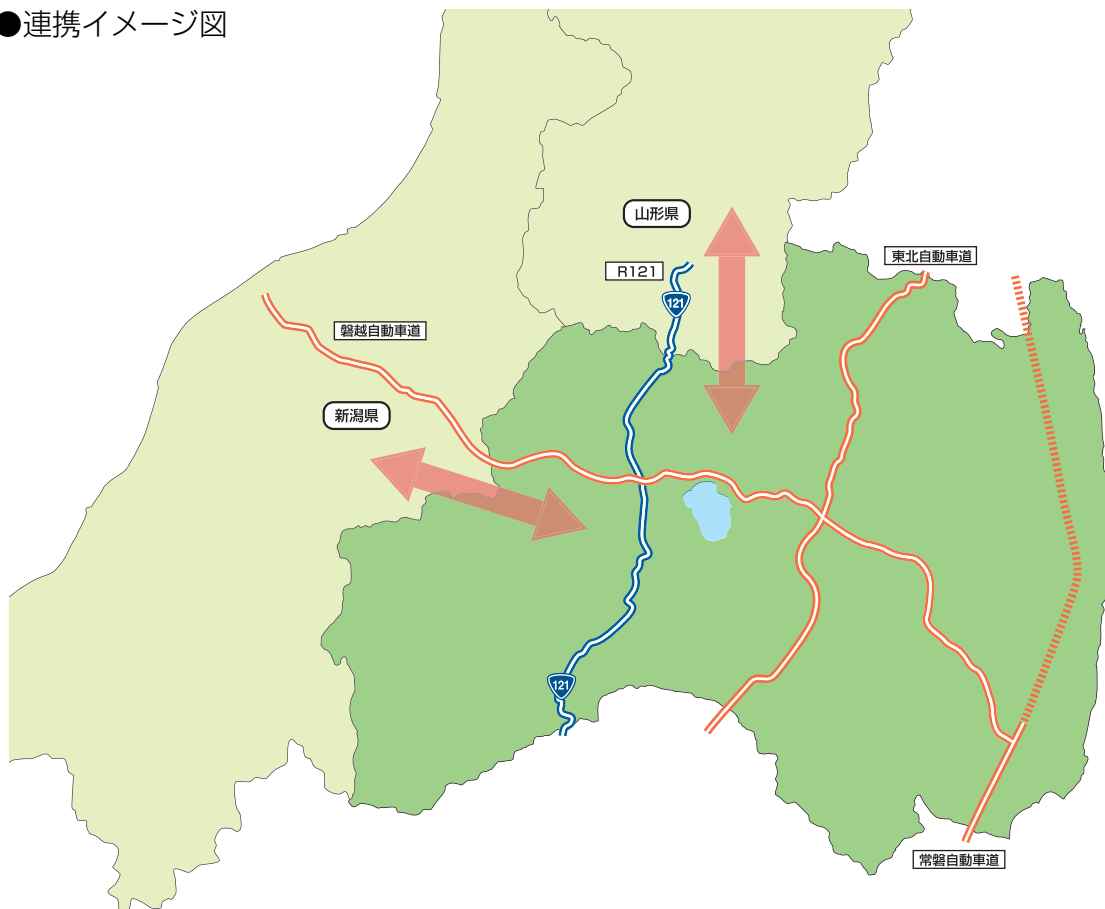


山形・新潟県際地域での交流

山形県・新潟県との県際地域は、飯豊連峰や阿賀川などの豊かな自然に恵まれた地域ですが、山間・豪雪という自然条件等から、過疎化・高齢化が進行しています。磐越自動車道や国道121号などの整備により、県境を越えたスポーツ交流や広域観光連携などが進みつつあり、今後、県際地域の連携による多様な交流の展開や、地域資源を活用した新たな魅力の創出が期待されています。

このため、山形・新潟両県との協力の下、県境を越えた関係市町村、地域住民等の連携を促進し、歴史・文化や自然環境など多様な地域資源を生かした個性的な魅力を首都圏等に共同でアピールする広域的な地域づくりを進めます。

●連携イメージ図





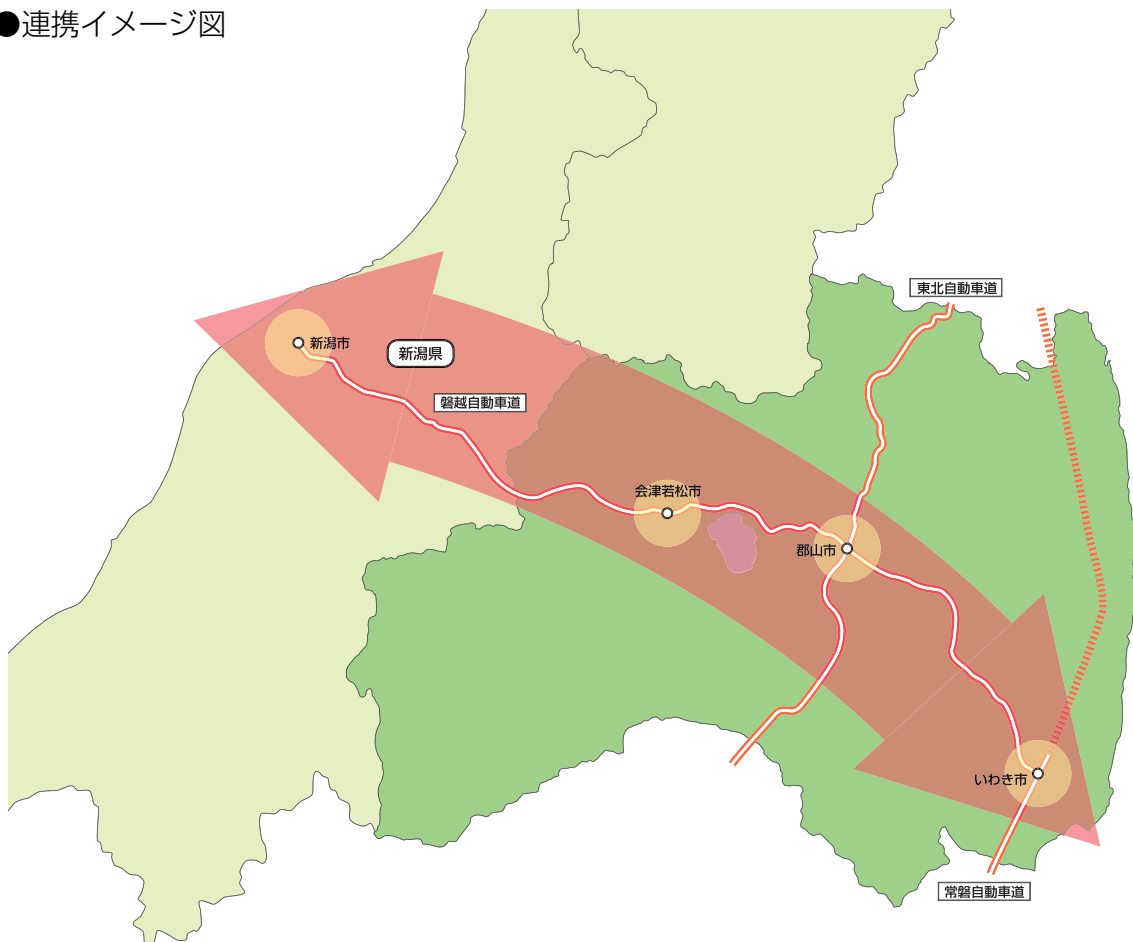
磐越自動車道を活用した広域的な地域づくり

磐越自動車道は、太平洋側と日本海側を結ぶ「横断道軸」として、北陸・近畿方面などとの新たな人・ものの交流を増加させるなど、極めて大きな広域連携創出力を有しています。

この横断道軸の強化により、磐越自動車道沿線地域の観光・産業・物流の活性化など多面的な効果の拡大や沿線都市間の広域的な都市機能の相互活用、さらには、沿線都市と中山間地域との連携による新たな交流の創出が期待されます。

このため、会津縦貫北・南道路、福島空港・あぶくま南道路（あぶくま高原道路）の整備など沿線周辺地域からのアクセス向上を図るとともに、広域観光や学術・産業の連携など広域的な交流・連携を図ります。

●連携イメージ図



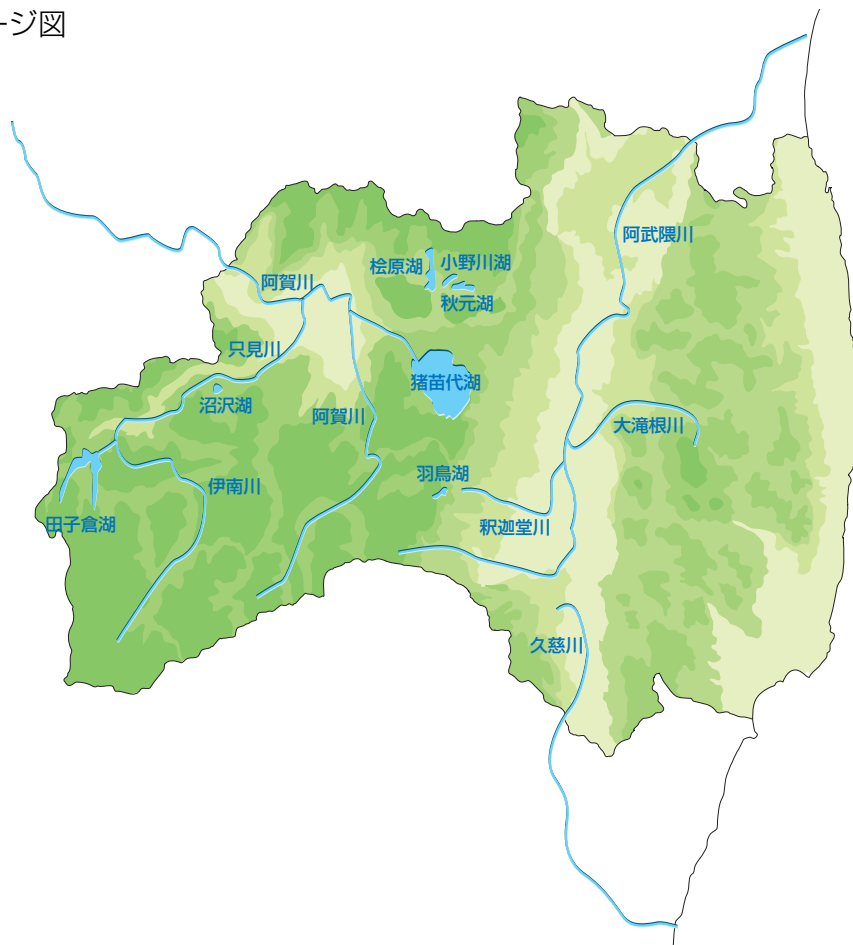
流域連携による地域づくり

本県は、阿武隈川、阿賀川、久慈川など多くの河川の源流域を有しており、これらの流域においては、上下流域住民等による河川環境の保全活動や共同イベントの開催など、河川の流域を単位とした連携による地域づくりの気運が高まりつつあります。

このため、河川の親水機能を高める条件整備や流域が一体となったPR活動などを促進し、河川流域での観光・レクリエーションの振興を図るとともに、上下流域の住民が連携した水質保全のための取組みを促進します。

また、森・川・海を一体としてとらえ、流域住民による行政の枠を越えたネットワーク化や源流域での森林づくり等を支援し、「循環の理念」に基づいた地域づくりを進めます。

●連携イメージ図

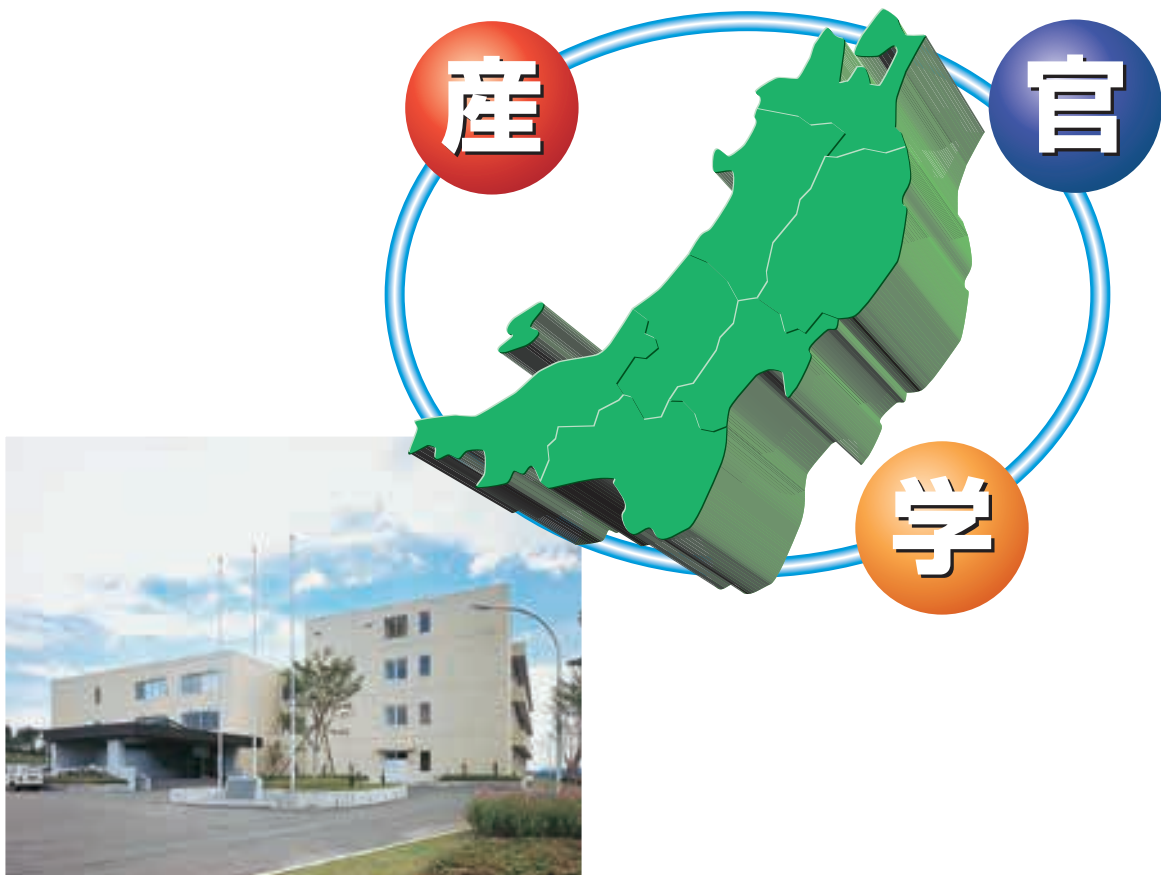




東北インテリジェント・コスモス構想

新潟県を含む東北7県は、東京圏に近接するという地理的優位性と豊かな自然条件を有し、高速交通体系の整備進展、高等教育機関等の充実、先端技術産業の集積等、地域発展のポテンシャルが大きく高まっている地域です。

こうした東北地方において、産・学・官が連携し学術・技術・情報機能の集積と高度化を進め、各地域に集積されたこれらの機能のネットワーク化を図ることによって、東北が一体となった自立的未来型産業社会を形成し、東北を21世紀における日本の頭脳と産業開発の国際拠点とすることをめざします。



(株)インテリジェント・コスモス研究機構

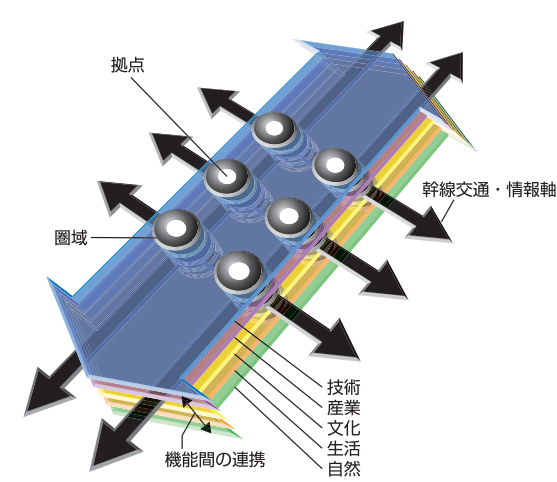
北海道・東北21世紀構想（ほくとう銀河プラン）

「ほくとう日本」（北海道、東北6県、新潟県）は、広大な土地を有するとともに、豊かな水資源、美しい自然環境等に恵まれており、これらを生かしたさまざまな新しいランドデザインを描くことが可能な地域です。

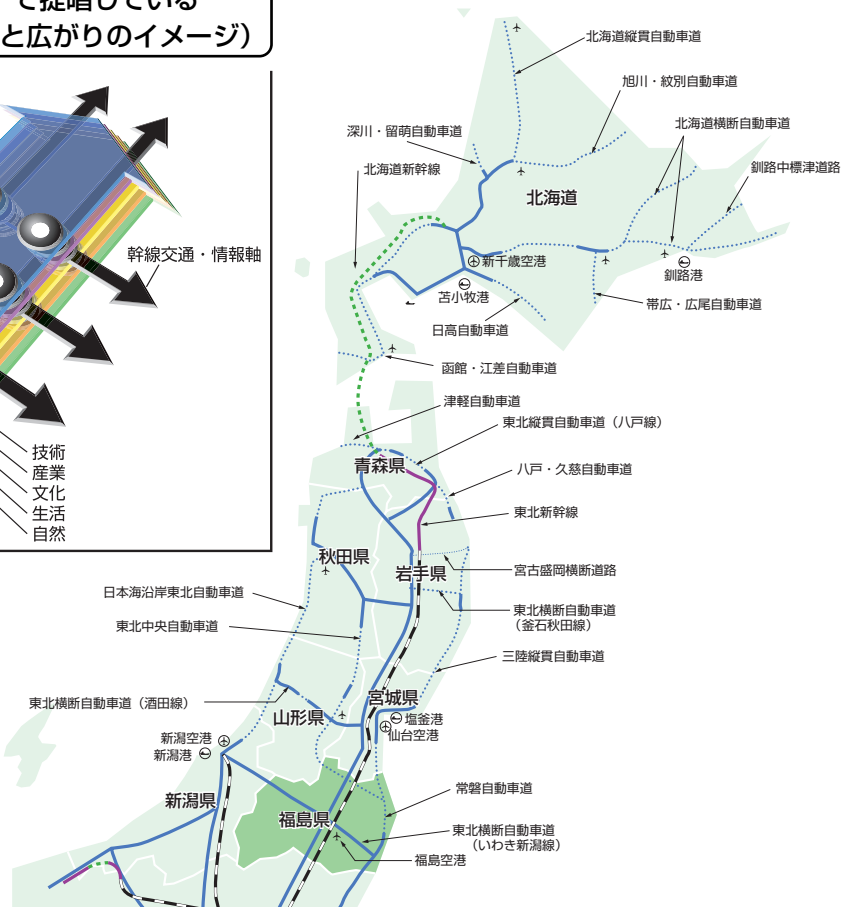
一方、新時代の地域づくりは、こころの豊かさ、自然とのふれあい、ゆとりの創出など新しい価値観を重視することが強く求められています。

こうした中、北海道・東北地方がその特性を生かしながら、一体となって、交通・情報等の基盤整備、多様な交流圏の形成、自然と共生した空間づくりなどをめざす「ほくとう銀河プラン」を推進し、新しい国土軸の形成を図ることにより、国土の均衡ある発展、多極分散型国土の形成、さらには、真に豊かな地域社会の形成をめざします。

「ほくとう銀河プラン」で提唱している 新国土軸のイメージ（厚みと広がりイメージ）



凡 例	
〈道路〉	高規格幹線道路
	地域高規格道路
	供用区間
〈新幹線〉	整備新幹線（既着工区間）
	整備新幹線（それ以外の区間）
	営業線
〈空港〉	⊕ 空港
	+ 第1種及び第2種空港で上記以外のもの
〈港湾〉	⊙ 港湾
	特定重要港湾で上記以外のもの



阿武隈地域総合開発事業

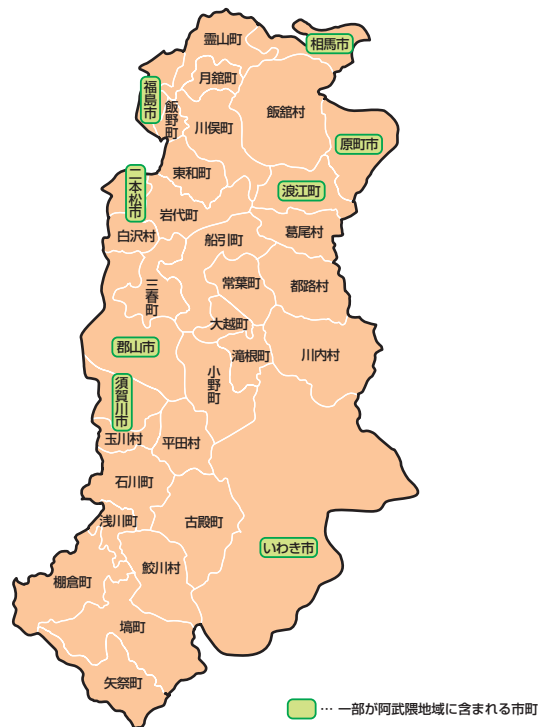
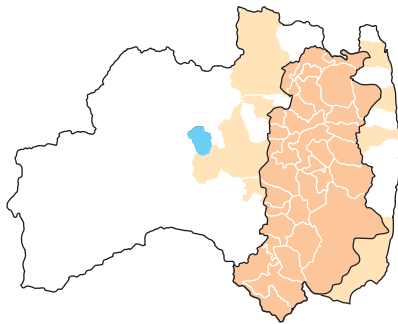
阿武隈地域は、近年、福島空港や磐越自動車道などの高速交通体系や多様な余暇空間等の整備が進められ、新たな発展の時を迎えています。

また、東京から200km圏という地理的優位性に加え、豊かな自然に恵まれ、堅固で安定した地質構造からなる広大な丘陵地という好条件を有しています。

このため、当地域の有する優れた自然環境を保全・活用するとともに、整備された高速交通体系やそれぞれの地域特性を生かしながら、周辺都市とも連携しつつ、生活環境の向上、企業誘致や産業の創出、多様な交流の展開が図れるよう、道路網や生活関連基盤等の整備を促進し、人に優しく自然と共生した地域の形成に努めます。

また、首都機能移転に関する取組みと連携しつつ、「あぶくま新高原都市構想」の推進を図ります。

● 卷域义



●【構成市町村】（7市19町8村）

福島市、二本松市、靈山町、月舘町、川俣町、
飯野町、白沢村、岩代町、東和町、郡山市、
須賀川市、石川町、玉川村、平田村、浅川町、
三春町、小野町、滝根町、大越町、都路村、
常葉町、船引町、棚倉町、矢祭町、塙町、
鮫川村、古殿町、原町市、相馬市、川内村、
浪江町、葛尾村、飯舘村、いわき市

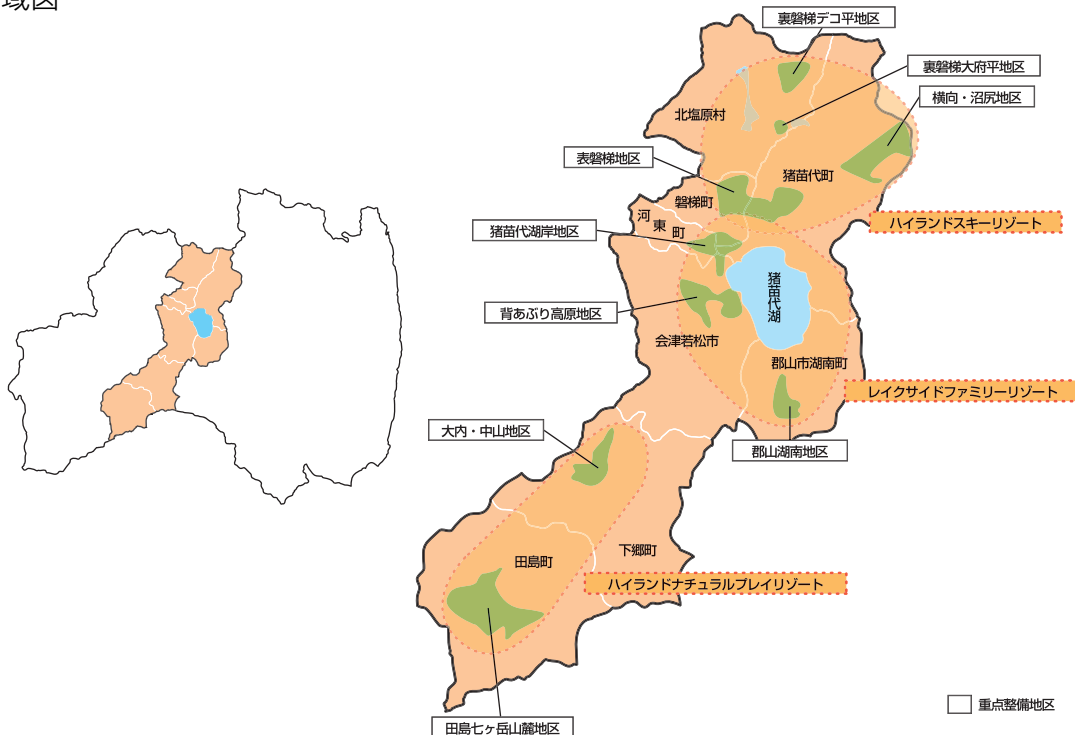
会津フレッシュリゾート構想

裏磐梯から、表磐梯・猪苗代周辺、会津若松市、南会津へ至る地域では、会津フレッシュリゾート構想に基づき、オールシーズン型高原リゾートとして、スキー場、マリーナ、ホテル等の整備が進められています。

会津フレッシュリゾート地域は日本を代表する美しい自然や歴史・文化資源に恵まれ、首都圏に隣接しているという地理的優位性を持っていることから、さまざまな地域資源の活用や、ホスピタリティの向上等により、リゾートとしての魅力をさらに高めるとともに、PRや情報発信に努め、交流人口の拡大による地域の活性化を図ります。

また、自然環境の保全に配慮するとともに、景観形成重点地域に指定されている磐梯山・猪苗代湖周辺をはじめとする会津地域の、優れた景観の保全・創造に努めます。

●圏域図



●【構成市町村】（2市5町1村）

会津若松市、郡山市（湖南町）、北塩原村、磐梯町、猪苗代町、河東町、田島町、下郷町



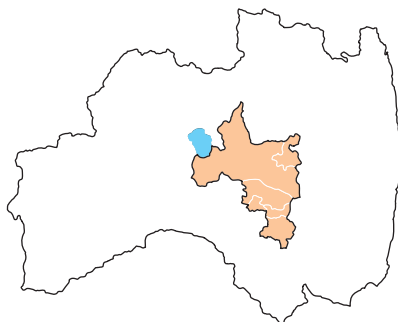
郡山地域高度技術産業集積活性化計画

郡山市、須賀川市を中心とする地域は、郡山地域テクノポリス開発計画や郡山地域頭脳立地構想に基づく取組み等により、大学、研究機関、支援機関を中心とした技術面、経営面、人材面等での支援機能の集積や産業立地基盤の整備が進んでおり、地域全体がいわば「産業を育む大きな器」としての高い機能を有しています。

このため、本地域を、新たな事業を育みその巢立ちを助ける機能をもつ「地域インキュベータ」として位置付け、地域の有する新事業創出のための資源の質の一層の向上を図るとともに、これらの資源を最大限に活用しながら、将来成長が見込まれる情報通信関連分野、医療福祉関連分野、環境関連分野、新製造技術関連分野を中心に、その積極的な振興を図るなど、新事業の創出に向けた主体的な取組みを推進します。

また、その技術的、経済的な効果を県内全域に波及させることにより、各地域の特性に応じた高度技術産業の導入、新事業の創出等、県土の均衡ある発展を図ります。

●圏域図



●【構成市町村】(2市3町1村)

郡山市、須賀川市、鏡石町、石川町、玉川村、三春町

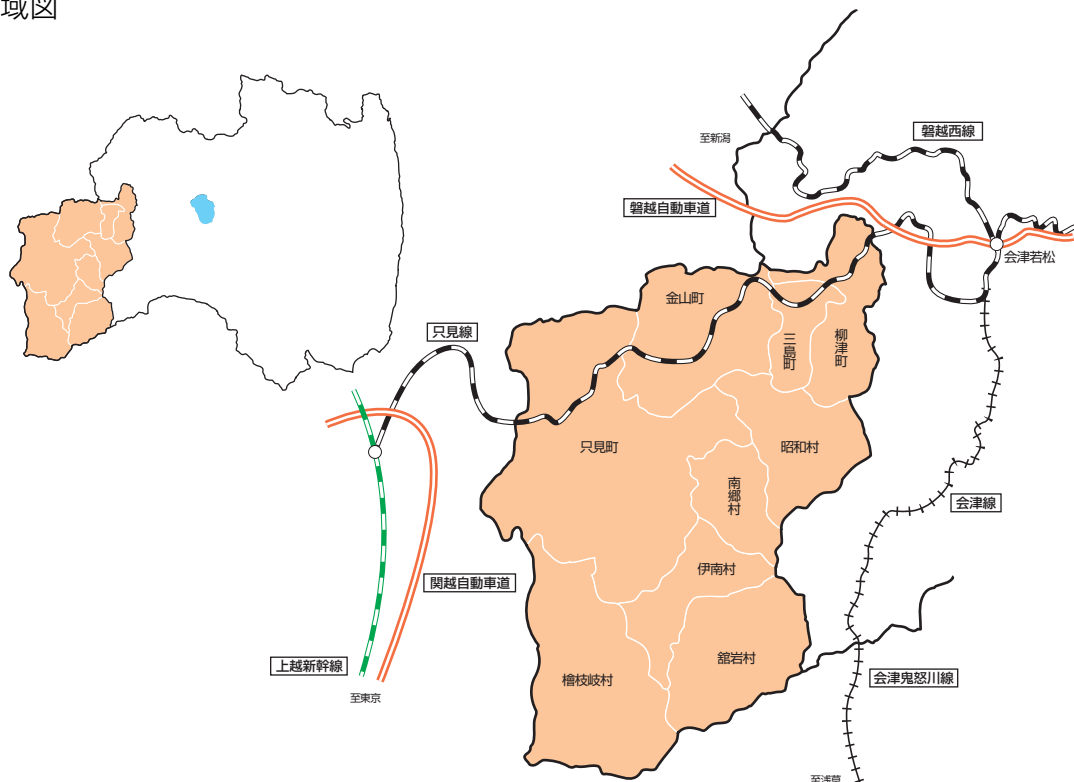
新「歳時記の郷・奥会津」活性化事業

只見川電源流域の地域は、豊かな自然の中に四季折々の行事等がいきいきと息づいており、正に地域のトータルイメージを「歳時記の郷・奥会津」と呼ぶにふさわしい地域であり、潤いのある生活環境と美しい農山村の景観を維持・形成していくことが求められています。

このため、「尾瀬の自然と奥会津の文化」の保全と創造に向け、流域9町村が連携した取組みを行う、新「歳時記の郷・奥会津」活性化事業を支援します。

この事業に基づき、自然との共生を図りながら「尾瀬街道」で結ばれた広大な圏域において、水源の地である奥会津にふさわしい生活の創造をめざした事業を展開し、地域に息づく文化等を生かした個性的で魅力的な圏域づくりを進めます。

●圏域図



●【構成市町村】（4町5村）

柳津町、三島町、金山町、昭和村、館岩村、檜枝岐村、伊南村、南郷村、只見町



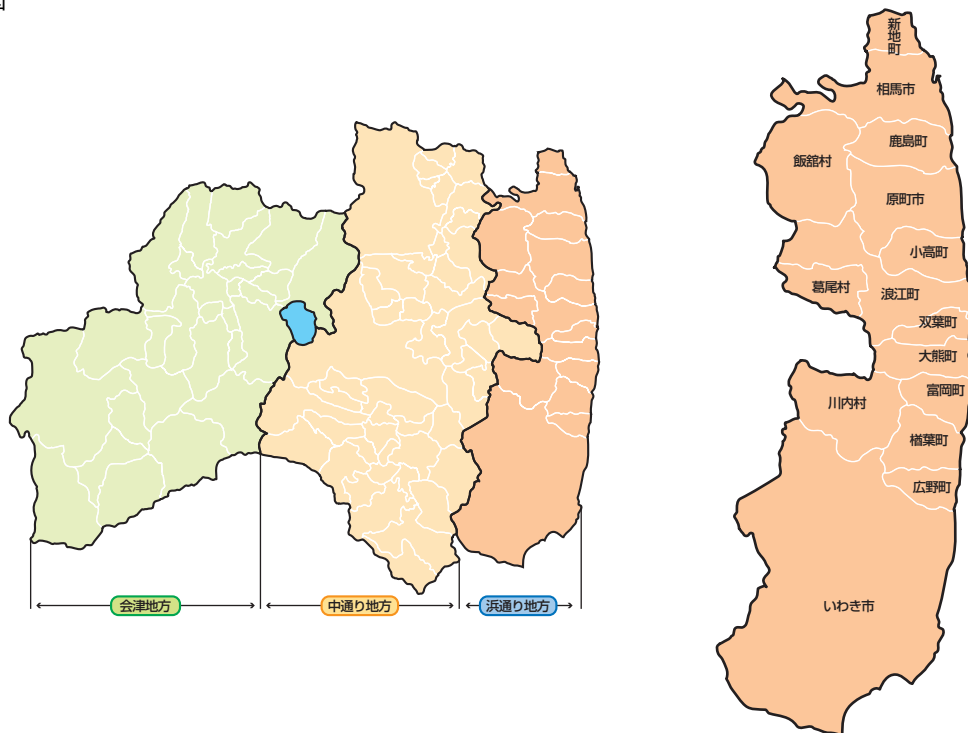
ふくしま沿岸域総合利用構想

太平洋に面する変化に富んだ約160kmの海岸線と、阿武隈地域の一部を含む沿岸域は、多様で豊かな自然や伝統文化などの資源を有しています。

また、常磐自動車道や重要港湾の整備が進められ、Jヴィレッジなどの広域交流拠点や港湾などの物流拠点の整備も進展していますが、当地域における資源の多面的な利用可能性をさらに引き出すことが重要となっています。

このため、東北中央自動車道などの幹線道路網の整備や広域観光拠点の整備等により魅力ある地域づくりを進めるとともに、常磐自動車道の整備効果を活用した地域内外との広域的な連携・交流の促進を図ります。

●圏域図



●【構成市町村】(3市9町3村)

いわき市、原町市、相馬市、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、新地町、鹿島町、小高町、飯館村

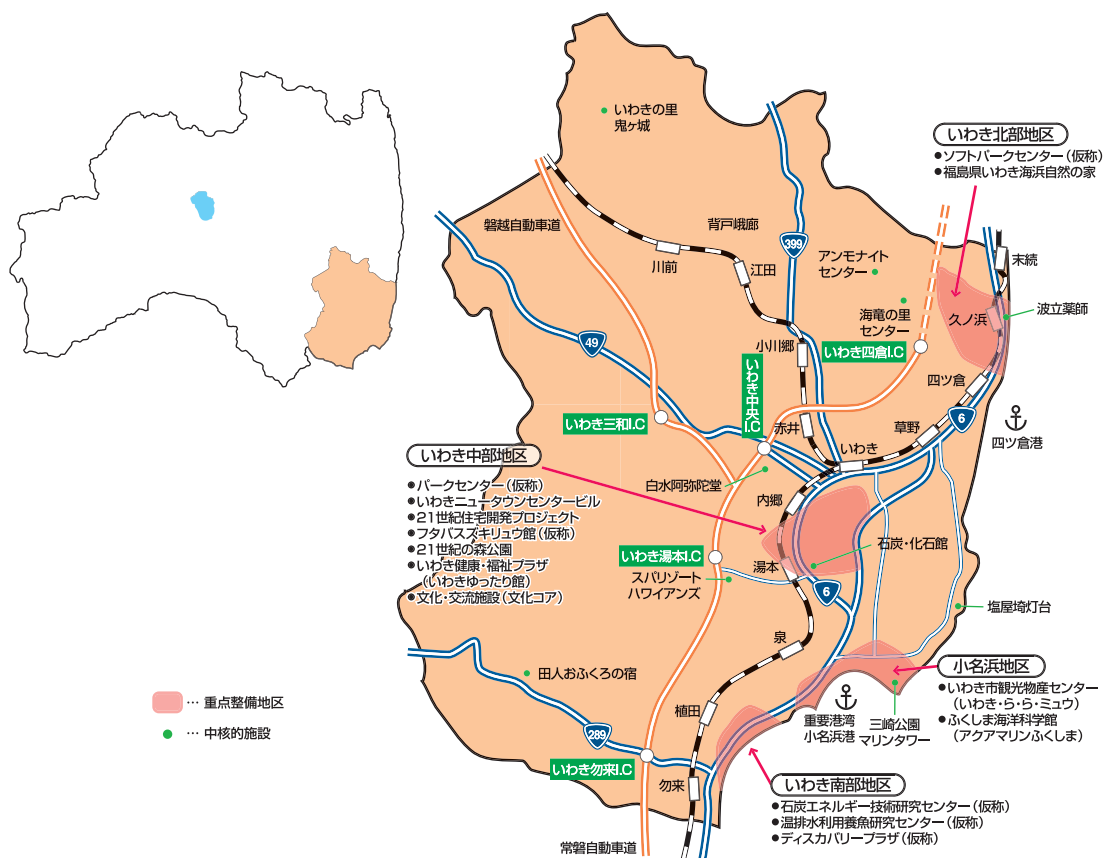
いわき振興拠点地域構想

本構想は、海洋とエネルギーをテーマにした文化・交流機能、地域産業を育成するための研究開発機能、研修・学習機能の集積を図り、いわき地域を海洋とエネルギーに関する産業・技術・文化・交流の拠点として整備することを目的としています。

これまで、いわき・ら・ら・ミュウ、アクアマリンふくしま、いわき海浜自然の家、いわきゆったり館などが整備されており、これらの施設が交流人口の拡大など当地域の振興に大きく寄与することが期待されています。

このため今後とも、中核的施設等の整備促進を図るとともに、それぞれの重点整備地区が相互に連携し、周辺地域を含めた広域的な振興拠点として形成されるよう支援します。

●圏域図

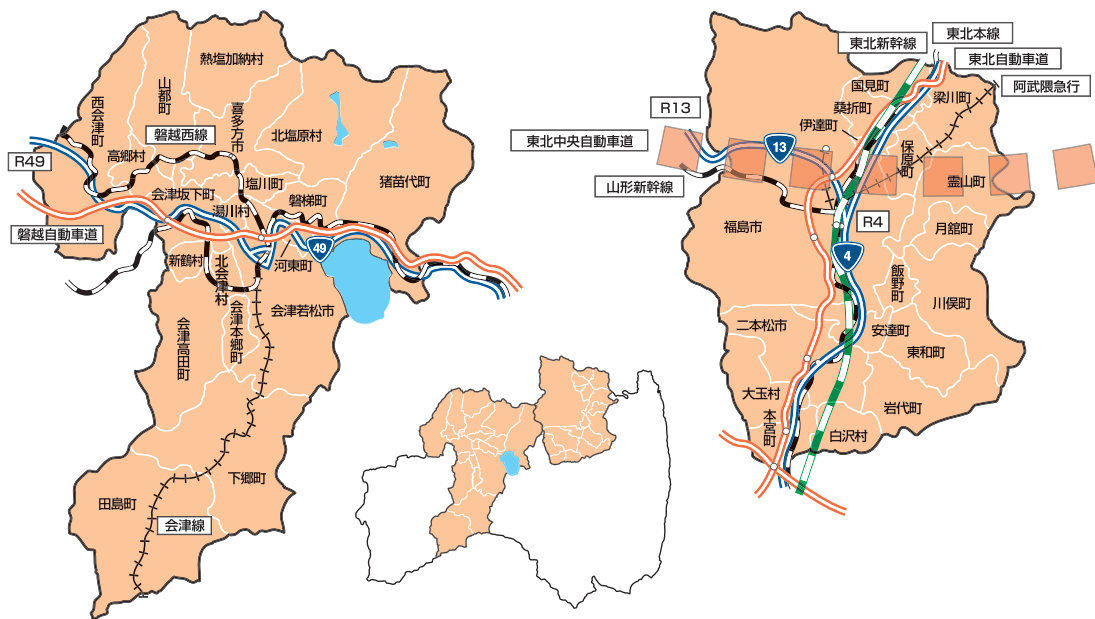


地方拠点都市地域整備事業

福島地方拠点都市地域は、県都・福島市を中心に行政、業務、文化などの中枢機能が集積されており、また、東北・山形新幹線、東北自動車道などの高速交通体系も整備されています。これらの豊かな資源を生かしつつ、各市町村が役割を分担し、既存の中枢機能の拡充や新たな都市機能の導入、良好な居住環境の整備などを進め、総合都市圏ふくしまの形成を図ります。

一方、あいづ地方拠点都市地域は、会津大学などコンピュータ関連技術の集積や豊かな自然、歴史文化資源に恵まれており、また、磐越自動車道などの交通基盤が整備されつつあります。これら地域の特性を生かし、首都圏や周辺住民との交流を促進することにより、観光・レクリエーション機能の強化、地場産業を含めた多様な高度産業地域の形成、豊かな居住環境の整備などを進め、交流都市圏あいづの形成を図ります。

●圏域図



●【構成市町村】

- 福島（2市13町2村）福島市、二本松市、桑折町、伊達町、国見町、梁川町、保原町、霊山町、月館町、川俣町、飯野町、安達町、大玉村、本宮町、白沢村、岩代町、東和町
- あいづ（2市11町6村）会津若松市、喜多方市、田島町、下郷町、北会津村、熱塩加納村、北塩原村、塩川町、山都町、西会津町、高郷村、磐梯町、猪苗代町、会津坂下町、湯川村、河東町、会津高田町、会津本郷町、新鶴村